

公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構

2024年度事業報告書

至 2024年4月1日～2025年3月31日

公益目的事業

公1 聴覚障害者自立支援事業

公1-1 地域生活支援事業

公1-1 (1) 専門相談及び相談員派遣

専門相談

自立支援センターにおいて、専門家による相談事業を行った。

定期（月1回）・・・法律相談

予約・・・生活相談、聞こえの相談など

今年度は法律相談の申し込みのみとなっている。

※相談実績は別表（1）参照

相談員派遣

毎週土曜日の午後（第5土曜は休み）東京都障害者福祉会館の相談員（ろう者担当）を推薦した。以下の通りに高齢、女性、地域、ろう運動などの相談がしやすいよう担当を配置。

毎週土曜日（第5土曜除く）

担当：唯藤節子（第1土）、三原恭明（第2土）、越智大輔（第3土）、平井伸治（第4土）

その他、月1回、就労継続支援事業B型施設「かがやき夢工場」の通所者相談事業に下記の通り相談員を派遣した。

4月：平井伸、5月：浦田、6月：小池、7月：川津、8月：荒井

9月：有山、10月：平井伸、11月：中止、12月：中止、1月：川津

2月：田原、3月：中止

公1-1 (2) 相談支援事業、区市相談支援事業

地域（区市町村）自治体との契約による聴覚障害者を対象にした相談支援事業を実施。必要に応じて「相談支援事業ネットワーク」加入施設とも連携して相談支援を行うこととしている。※今年度は該当なし

※相談実績は別表（1）参照

公1-1 (3) 相談支援ネットワーク事業

東京都内在住の聴覚障害者（手帳の有無は問わない）と家族を対象に、自立支援センターを窓口にして、聴覚障害者支援センター（旧生活支援センター）、アレーズ秋桜（旧金町学園）、トット文化館、情報文化センターが合同で実施、情報交換し

ながら該当者を紹介するなどの支援を行うこととしている。
※今年度は該当なし。

公1-1 (4) 聴覚障害者相談員・自立支援協議会委員研修事業

① 福祉対策担当会議

日 時：8月11日（日）午後1時30分～3時

会 場：渋谷区立地域交流センター恵比寿

参加者：30名

内 容：

- 1) 全国ろうあ者大会の福祉担当者会議の報告、改正障害者差別解消法について
- 2) 自立地域支援協議会の意見交換
- 3) 社会福祉に関する基本用語は、相談員としての知識を高めるため資料を配布

② 身体障害者相談員・自立支援協議会委員担当者会議

日 時：12月21日（土） 午前9時30分～11時45分

会 場：渋谷区リフレッシュ氷川多目的室A

参加者：13地域から19名

内 容：地元の身体障害者相談者と意見交換

情報文化センター相談員学習者 DVD について説明

③ 地域における福祉施策学習会（福祉事業部）

日 時：2025年1月25日（土） 午前9時30分～11時45分

会 場：中央区晴海区民館

参加者：8地域から15名

内 容：講師 東京手話通訳等派遣センター長・さくらんぼセンター長（現任）

森せい子氏 「さくらんぼ」について

講師 東聴連副会長

唯藤 節子氏 「優生保護法」について

④ 施設見学（福祉事業部）

神奈川県川崎市ろう高齢者老人ホーム（川崎ラシクル）を見学する予定だったが都合により実施できず。

公1-1 (5) 成年後見制度法人後見事業

成年後見、保佐、補助が必要な東京都内の聴覚障害者を対象に、法人として後見人（保佐人、補助人）を引き受ける。

※今年度は該当者なし。

実施期間2024年4月～2025年3月

実施場所主に被後見人の居住地区

公1-2 就学支援・教育環境推進事業

公1-2 スクールソーシャルワーク、教育相談事業

都立ろう学校におけるスクールソーシャルワークのねらいは「児童生徒が適切に成長し、対人関係の向上や社会的適応力を育てるために、基本的なカウンセリング

心理学に基づく専門的な手法を用い、保護者や教師に対して助言を行う。また児童の『生きる力を育てる』ことを目指し、福祉的支援が求められる児童生徒やその家庭には、訪問などの方法でアプローチし、教職員と連携して社会的自立を促進するための支援を行う」である。主に、以下の内容で進めている。

(1) 学校訪問（定期相談）及び家庭訪問や福祉・医療機関への動向（個別対応）

(2) 内容

①児童生徒、保護者、教職員からの相談（月1～2回）

②ケース会議の参加（年に数回）

③家庭訪問や医療・福祉機関等へのアウトリーチ

(3) ①～③に付随する業務としては、支援記録、会議参加、情報収集、情報提供、機関連携調整などがある。

最近の動向としては、登校渋りや引きこもりとなっている生徒の支援だけでなく、知的や神経症、発達などの重複障害を抱え家族や友人との関係に悩むケースが増えており、手話によるSST（※1）やCBT（※2）を取り入れた個別面談も実施している。保護者や教職員、関係機関・者とのケース会議では助言を求められることも多く、保護者の協力や学校関係者との連携によるチーム支援は児童生徒の社会的自立に向けたより良い支援につながることも多い。

聴覚障害者の支援では障害者総合支援法による一般の支援ネットワークがあまり通用しないため、ろう学校における既存の支援機関との連携には聴覚障害に関する福祉サービスや社会資源に通じたスクールソーシャルワークのスキルと資質向上が求められるようになっている。

支援対象校

立川学園聴覚障害教育部門、葛飾ろう学校、大塚ろう学校、中央ろう学校

（※1）SST：ソーシャルスキルトレーニング（社会性のスキルを学ぶ訓練）

（※2）CBT：認知行動療法（考え方のクセ等を知り心理療法の視点からストレスを軽減する）

※相談実績は別表（1）参照

公1-3就労支援・職場定着推進事業

公1-3（1）ジョブコーチ職場定着支援事業

就労移行支援事業実施に伴う職員配置の事情により休止となっている。

公1-3（2）企業対象聴覚障害者職場定着支援事業

2023年度は定着支援に関する相談事業につき、1件の契約企業、手話通訳者の派遣事業につき2件の契約企業において支援を行った。定着支援に関する相談事業では、契約企業で働く聴覚障害者が職場に定着できるように、支援員が定期的に企業を訪問して本人、上司、管理職と面談を行い、必要に応じて助言、フィードバックを行い、就労環境の安定化に努めている。近年は定着上の困難さを抱えた聴覚障害者について集中的な支援を求められるケースが見られる。

また、手話通訳者の派遣事業では、聴覚障害者を雇用している企業において、聴覚障害者が業務上必要となった場合の手話通訳派遣に係るコーディネート業務を実施しており、就労する聴覚障害者の職場における情報共有において重要な役割を果たしている。

実施頻度：定期相談は毎月数回実施、手話通訳派遣は企業からの依頼に応じて毎月

数回対応。

実施場所・契約企業内

※相談実績は別表（１）参照

公１－３（３）障害者就労移行支援事業（RONAスクール）

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスとして、一般就労等を希望する６５歳未満の聴覚障害者に対して、原則２年間、通所もしくは在宅訓練を通じて職業技能訓練などの支援、職場実習、就職活動支援を実施している。また、就職決定後はスムーズに就労継続ができるよう職場訪問などのアフターフォローも半年間行っており、その後は就労定着支援事業へ引き継いでいる。

２０２４年度は、２０２３年度に露見した旧管理職らによる不適切な事業運営に関して東京都からの立ち入り検査や面談を受け、現在結果を待っているところである。なお、２０２２年１２月に現所長に事業運営が引き継がれた２０２３年度以降の運営について東京都の立ち入り調査を受けたが、問題なしとして事業指定の更新を無事受けることができた。旧管理職らによる２０２２年度以前の運営については依然として東京都による調査中で結論を待っているところである。

なお、２０２２年度以前の旧管理職らによる運営上の不備について、新体制に受け継がれた２０２３年度以降はほぼ解消され、運営の健全化が大きく進んでいる。このように運営体制の改善を求められている厳しい業務環境の中でスタッフは精力的に利用者の支援に取り組みを進めてきた。２０２３年度に利用者数の落ち込みが見られた影響で２０２４年度は就職者数が落ち込んでいるが、平均利用者数は回復しており、今後の就職者数の増加が期待される。平均利用者数が回復してきた要因としては、２０２３年度後半から民間企業に勤めようとするＳＥと委託契約を結んでＰＣスキル向上講座を実施していることや、元利用者、利用者の保護者からの紹介で利用申し込みがあったことが大きいと考えられる。また、いったん就職しながらも事情により退職して再びRONAスクールに戻ってくる利用者に対する支援ニーズも出てきており、２０２４年度も数名いたが、いずれも無事に再就職できている。

	２０２２年度	２０２３年度	２０２４年度
年間平均利用者数の推移	９．５８名	５．８名	７．５名
就職決定者	４名	１１名	４名

公１－３（４）指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業（RONAプラン）

サービス等利用計画についての相談及び作成などの支援が必要と認められた場合に、障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントにより支援を行った。

しかし、２０２３年度半ばに２名の担当者が退職したことにより同年１０月をもって事業休止となった。

２０２４年度にスタッフに相談専門支援員になるために必要となる研修を受けさせ、無事修了できたことから、事業再開申請及び事業指定更新手続きを行い、２０２５年度６月に事業再開を予定している。

サービス利用者数

サービス等利用計画利用 0名

継続サービス利用支援（モニタリング）利用 0名

公1-3（5）就労定着支援事業（RONAサポート）

障害者総合支援法に基づく福祉サービス。就労移行支援事業を利用して一般就労した聴覚障害者に対して、6ヶ月が経過した時点から原則3年間就労定着支援を実施することができる。

就労移行支援事業による6か月間のアフターフォローから引継ぎ、定期的に職場訪問して企業側や障害者との面談を通じて、就労場面や就労に伴って生じている生活面での課題があった場合、環境整備や関係調整等を行って課題を解決することによって、引き続き安定した就労生活を送ることができるように支援を実施している。

この数年の就労移行支援事業による就職者数の増加と共に定着支援の利用者数も増加しており、過去3年間の利用者数は24人となっている。そのうち2024年度末時点で就労継続している者は16人で、66%の定着率となっており、昨年度より落ち込んでいる。しかし、これは3年間以内の利用対象者で見た場合の数字であり、1年以内の退職者は全くいない。2年目、3年目以降に労働条件や人間関係上の都合で退職してRONAスクールに戻る利用者が見られるようになってきていることが、定着率低下の背景となっており、2年目以降の長期定着を図るための支援が課題となっている。特に企業における正社員昇格の条件が厳しいことや低賃金にとどめおかれがちであることも利用者のモチベーション低下の背景となっており、企業に対する意識向上のための働きかけも求められているところである。

①過去3年間（2022～2024年度） における就労定着支援の総利用者数	24人
② ①のうち2024年度末時点の 就労継続者数	16人
③ 就労定着率（②÷①）	約66.0%

※1年以内の退職者は0人であり1年間定着率は100%である。他の支援機関の平均が約60%台であることを考えると弊所の支援は一定の効果を発揮していると考えられる。

公2 聴覚障害者社会参加推進事業

公2-1 社会参加・理解啓発推進事業

公2-1（1）聴覚障害者社会参加活動助成事業

地域（区市）の聴覚障害者団体へ聴覚障害者の社会参加推進のための活動費を助成することにより、地域の聴覚障害者の社会参加・福祉増進に寄与することを目的

として実施。また、高齢聴覚障害者や、ろう重複障害者などの支援活動も助成。

助成地域 47地域（区市町）

助成額 6,230,000円

公2-1（2）聴覚障害者情報紙頒布事業

◎「東京都聴覚障害新聞」の発行

頒価100円※聴覚障害者及び賛助会員には無料配布（第三種郵便認可）

都内の聴覚障害者と関係者に対する情報の提供及び理解啓発を目的として毎月発行した。

福祉関係施設、関係団体等にも配布。

A4版12頁～20頁 毎月1回5日 2,000部発行

通算683号～694号

公2-1（3）地域活動支援情報発信・提供事業

固定IPアドレスと独自ドメイン取得と、独自のサーバーにより、HP（ホームページ）、ML（メーリングリスト）、MM（メールマガジン）で幅広い情報提供を行っている。災害に備えてサーバーの設置場所を都外に移し（独自のサーバーをレンタルサーバーに切り替え）、非常時の情報発信ができるようにするとともに安定性を高めた。

コロナ禍で情報発信が重要になったので、ホームページをさらに改修し、注意啓発動画や災害対策ニュースなどを発信した。

インターネットホームページ <http://www.tfd.deaf.tokyo>

3月16日の評議員会において、区市アドレスの確認と申請・変更方法の説明を行った。現在未登録地域は2カ所のみ。

（1）Eメールアドレス

傘下団体公式アドレス配布。deaf.to から deaf.tokyo に移行。

（2）ホームページ

傘下団体ホームページの提供、開設サポート（申し込みなし）

（3）ML（メーリングリスト）

会員、役員、委員会のMLを必要に応じて作成

（4）MM（メールマガジン）

区市協会宛に通知や事務連絡などの情報を発信

公2-1（4）第69回東京都聴覚障害者大会

開催会場が確保できなかったことと、デフリンピックに注力するため実施しなかった。2026年度開催に向けて話し合いを進めている。

公2-1（5）第54回耳の日記念文化祭

実施日 2025年2月22・23日

会場名 東京都障害者福祉会館他

参加者 1,925名（2日間通算、チケット販売数）

内 容

メインテーマ『デフリンピックだ！みんなで新しい社会を創ろう！！』

徐々参加者数が回復してきたが、見込み収入に届かず企画がマンネリ化しているのではと思う。

2025年度会場（リーブラホール取得出来ず）候補会場確保が課題

メイン企画（みなとパーク芝浦）
・デフリンピックトークショー他

東京都障害者福祉館企画

- ・模擬店（2店）
- ・陸上競技体験コーナー（東京都協力）
- ・難聴体験VRコーナー
- ・デフリンピック展示
- ・東京都手話言語条例、他展示
- ・書籍販売
- ・占いコーナー
- ・福祉機器展
- ・災害、各種展示
- ・相談コーナー（25日のみ）

などを実施した。

公2-1（6）第26回自立支援センターまつり

実施日 7月15日（月・祝）

会 場 自立支援センター、渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 約200名

「デフリンピック」を中心にする形で開催した。

自立支援センター2階：軽食・納涼コーナー、3階：RONAスクール見学
リフレッシュ氷川

1階集会室：午前：渋谷東ミニ映画祭（ワンコイン企画）

みんなのデフリンピック、東聴連秘蔵映像等

午後：式典、基調講演、福引

地下多目的室A：展示（手話言語条例、デフリンピック）、販売

4階多目的室B：書籍販売

2階多目的室C：展示（ろう運動、ろう教育、ろう文化関係）

公2-1（7）第35回東京都ろうあ女性のつどい

実施日：6月29日（土）

会 場：大田区新蒲田区民活動施設・カムカム新蒲田

参加数：368名

内 容：式典、映画「50年の沈黙」、記念講演

公2-1（8-1）第26回東京都のろう教育を考えるフォーラム

日 時：2025年2月11日（火・祝）午後1時30分～4時30分

主 催：東京のろう教育を考える会

加盟団体 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟、
東京都手話通訳問題研究会、東京都手話サークル連絡協議会、
全国要約筆記問題研究会東京支部、ろう・難聴教育研究会、
ろう教育の未来を考える会

会 場：港区高輪区民センター

参加者：70名

基調講演「スクールソーシャルワークとは？～全国的な動向と課題～」

日本社会事業大学准教授内田宏明先生

実践報告「全国聴覚障害者相談支援事業『なかま』におけるろう学校ＳＳＷ活動」
日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会理事 二神麗子先生

実践報告「東京都内のろう学校におけるＳＳＷ活動」
日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会会長 舘脇千春氏

公２－１（８－２）労働対策学習会

日 時：２月１６日（日） 午後２時～４時

会 場：渋谷区リフレッシュ氷川

参加者：１７名

内 容：「聴覚障害者の労働実態と支援」

講師：聴覚障害者支援事業所・RONAスクール就労支援員 松澤遥氏

※移行認定時の「公２－１（８）ろう教育&就労セミナー」を下記の２つに分けて実施している。

公２－１（８－１）東京のろう教育を考えるフォーラム

公２－１（８－２）労働対策学習会

公２－１（９）聴覚障害者のための文章教室（都委託事業）

東京都教育委員会よりの委託事業。

都内在住・在勤の聴覚障害者を対象に日常的な国語力、文章力を身につけることを目的として実施している。コロナウイルス感染が一段落したことから聞こえる方の参加も都の意向により認めることになった。

実施回数：前期（夜の部）１８回

後期（昼の部）１８回

実施場所：東京都障害者福祉会館

講 師：倉方厚子、越智大輔、早瀬憲太郎、早瀬久美

※別表（２）参照

公２－２高齢聴覚障害者支援事業

公２－２（１ 参加支援事業）ろう高齢者デイサービス事業

７０歳以上のろう高齢者を対象に、東京都ろうあヘルパー連絡会との共催事業で食事交流を中心に実施してきたが、今後は相談支援と関連したデイサービスに移行していくための準備期間として、高齢者ニーズ調査の結果をもとに準備を進めている。

公２－２（２ 理解啓発事業）第３９回東京都聴覚障害者敬老のつどい

実施日 ９月２３日（月・祝）

会場名 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 １１９名

内 容

式典後、板橋みつお氏に「あなたはどっち？台北と台南の魅力を教えます！」のテーマで講演を頂き台湾のろう社会状況や台湾の魅力等に変好評を頂いた。

公2-2 (3) 健康増進事業) 第30回東京都ろうあ高齢者ゲートボール交流大会

実施日 10月28日

会場 上井草スポーツセンター (杉並区)

参加数 6チーム30名 (スタッフ除く) 杉並区チームが初参加しました。

【団体成績】

優勝：練馬区 準優勝：大田区 3位：中野区

公2-3 聴覚障害者スポーツ振興事業

公2-3 (1) 第48回東京都聴覚障害者軟式野球大会

実施日 4月14日 (日)、21日 (4月7日はグラウンド状態不良で中止)

会場 大井埠頭海浜スポーツ公園野球場B面

参加 5チーム、78名

内容 優勝 大田区、準優勝：葛飾区、3位：八王子市

最高殊勲選手賞 板倉 謙士 (大田区)

最優秀投手賞 田村 駿人 (大田区)

首位打者賞 松本 弘 (八王子市)

敢闘賞 植田 敏照 (葛飾区)

参加チームは年々数が減って、5チームになった。トーナメント戦で行い、球場を借りたのは1面だけで2日間の日程で試合を行った。

公2-3 (2) 第48回東京都聴覚障害者卓球大会

実施日 4月13日 (土)

会場 東京都障害者総合スポーツセンター (王子)

参加数 105名

くじ引きでA～Iチーム (9チーム) に分かれて試合を行い、Hチームが優勝。

今回は障害の有無や年齢、経験など関係なくみんなが平等に戦える工夫をして交流を図った。100名を超える多くの方々が集まり卓球を楽しんだ。

公2-3 (3) 第36回東京都聴覚障害者ゲートボール大会

実施日 4月27日 (土)

会場 調布市緑が丘ゲートボール場

参加 6チーム (38名)

団体成績

優勝：練馬区 準優勝：大田区 3位：中野区 4位：杉並区 5位：多摩市

6位：足立区

調布市聴覚障害協会及び関係団体の力を借りて開催した。6チームでリーグ戦。

公2-3 (4) 東京都聴覚障害者グラウンドゴルフ大会

都合により中止した。

公2-3 (5) 東京都聴覚障害者運動会

東京2025デフリンピック開催1年前企画として東京都や全日ろう連主催のイベントに協力する形で広く都民への啓発のためにイベントとして開催した。

①全日ろう連主催（一部の企画を担当、要員協力）

実施日 10月27日（日） 豊洲ららぽーと

②東京都主催（一部の企画を担当、要員協力）

実施日 11月15日（金）～16日（土） 豊洲ららぽーと

③東聴連主催

実施日 11月23日（祝・土） 北区赤羽会館

※いずれも商業施設におけるお客様対象のため参加者数は不明だが、数千名規模。

公2-4手話啓発普及事業

公2-4（1 研究啓発事業）手話の研究と指導

手話研究者、手話通訳者、手話講習会運営者、福祉関係者等、各分野で活躍中の専門家にて構成された委員会で、都内の手話に関する諸問題の解決のための研究及び指導、出版事業の推進を行なった。今年度は2023年度から改編を進めた「手にことばを 上級」の一部改訂版を6月に発行、全国ろうあ者大会で販売できた。また、新たに「世界の都市名手話」を編集し、2025年3月に発行することができた。

実施日 4月1日～2025年3月31日

公2-4（2 講演研修事業1）手話セミナー

実施日 9月22日（日）

会場名 国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟

参加者 46名

講演テーマ「手話言語の発展と手話施策推進法（仮称）～将来の展望について」

高塚 稔氏（全国手話研修センター手話言語研究所標準手話研究部部長）を講師に招いて、手話言語の発展と手話施策推進法（仮称）とは何かについて講演していただいた。

内容は「手話言語の5つの権利」を基に、高塚氏の生い立ち、日本手話研究所研究員としての手話研究や手話の歴史、ろう学校同窓会、ろうあ協会の歴史や保存手話、標準手話、創作手話、「手話施策推進法（仮称）」などについてをわかりやすく話された。

公2-4（3 講演研修事業2）手話講習会指導者研修会

実施日 7月13日（土）

会場名 渋谷区立本町区民会館4階大集会場

参加者 60名

午前の部は「2024年度手話奉仕員養成担当講師連続講座（東聴連主催）」や「ろう者による手話通訳に関する見解（全日本ろうあ連盟）」等の情報提供と、区市手話講習会講師や助手のグループと区市手話講習会運営委員会担当のグループに分けて、講習会に関わる意見及び情報交換を実施した。

午後の部は講習会に関わる意見及び情報交換を基に課題のまとめを行い、来年度も引き続き、講習会に関わる意見及び情報交換を実施していくことになった。

公2-4（4 養成事業1）手話通訳者・手話支援者養成

自立支援センターにおいて、手話の社会的普及と手話通訳者の養成を目的として、

手話講座を開催している。

コロナ禍が収束してきたので、対面受講もしくはオンラインの形で開講した。特にオンラインの手話駅伝クラスは100名を超える応募があったのでZoomウェビナーを導入している。

上級手話講習会：地域などで手話を学び、さらに理解を深めたい手話学習者に対し、聴覚障害当事者から手話を学ぶ機会を提供する講座（全6クラス）。

期 間 2024年7月～2025年3月（全24回）

素晴らしい手話の世界への招待：手話の世界で活躍するろう者を講師に招き、講師の様々な経験や魅力的な手話にふれる機会を提供する講座（各期6クラス）。

期 間 2024年5月～2024年9月
2024年10月～2025年3月

「手話駅伝クラス」：役員等聴覚障害者が交代で担当し幅広い講義をする完全オンライン講座

会 場 いずれも自立支援センター2階多目的集会室（オンライン含む）

※別表（3）参照

公2-4（5 養成事業2）手話指導講師派遣事業

手話が社会に広まるにつれて、企業や専門学校で手話講座や講習会が開催されるようになっている。手話の普及促進のために聴覚障害者と通訳（助手）のペアで、職員を中心に対応した。

東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピック教育及びコーディネート事業団体としても登録したので、学校等からの単発依頼もあった。

テレビ放送番組の手話監修や、聴覚障害者が主人公の映画、ドラマ等の手話監修・指導なども受けている。

※別表（4）参照

公2-4（6 養成事業3）手話指導教材製作頒布（テキスト配布）

地域の手話講習会の指導用テキスト「手にことばを」を編纂、発行し、手話通訳者の養成、手話の普及のために使用した。

2024年度はデフリンピックに向けて「世界の都市名手話」を編纂発行した。

「手にことばを」初級 頒価1650円

中級 頒価1650円

上級 頒価1650円

「東京のろう運動と福祉」頒価2200円（改訂・講習会学習資料集）

「東京のろう運動と福祉DVD」 頒価1650円

「東京の路線駅名手話」 頒価1650円（単語集）改正版発行検討中

「世界の国名手話」 頒価1100円（単語集）

「世界の都市名手話」 頒価1100円（新規・単語集）

注：売上げは公益事業収入。テキスト以外の書籍売上げは収益事業収入。

収益事業

収 1 出版・派遣事業（主に東聴連事業）

収 1－（１）書籍販売事業

手話や聴覚障害者に関する書籍を販売し、聴覚障害者や手話への理解普及を進めるとともに、収益を得るために実施している。

コロナ禍の影響による講習会の休止で一時大幅減少したが２０２３年度以降かなり回復してきた。

年間収入 １３，１４４，２９６円

収 1－（２）印刷事業

施設に設置してある印刷機やコピー機の使用による収益。リースによる新機種を導入してより活用を図った。

コロナ禍により大幅減少、収束後もペーパーレスの影響などで回復せず。

年間収入 ６１，２７７円

収 1－（３）手話通訳派遣事業

東京都手話通訳派遣協会の派遣、斡旋対象外である選挙や収益等に関わる手話通訳を本連盟賛助会員等の協力を得て派遣・斡旋した。

政治関係 ６件

会社関係 ２件（ネット配信など）

個人関係 ０件

計 ８件

その他の事業（相互扶助等事業）

他 1 自立支援、社会参加活動・文化活動援助事業（主に東聴連事業）

他 1－（１）地域会議（会長会議、課題対策会議他）

◎課題対策会議（本部他専門部）

①前期課題対策会議

実施日 ５月１８日（土） 午前１０時～午後１２時

会 場 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 ５９名

３月の評議員会で東京都聴覚障害者連盟の組織改編にかかわる規約等の改正が承認されたが、組織改編について十分に話し合う時間をとれなかったことから、組織改編の内容を整理し、各区市聴覚障害者協会役員の理解を求め、意見交換を行うことを目的として学習会を行った。

運動と福祉施策の連携と若年層の育成について、施設などと連携した新しい運動

のあり方や若年層ろう者との関わり方や育て方などについてを話し合った。

午後からは同会場で区市会長会議があり、課題対策会議での話し合いを基にした意見交換を行った。

②後期課題対策会議

実施日 11月10日（日） 午後1時～午後4時

会 場 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 31名

まず、10月12～13日に開催された、全日ろう連盟の「マネジメント研修会」での学習内容を参加した大石組織部長が報告した。その後、デフリンピックのボランティア募集が始まるということで、ボランティアとは何か、オンラインでの申し込み方法などをデフリンピック推進委員会の栗野委員長が説明をした。最後に優生保護法の裁判報告を唯藤副会長より行った。

終わってみれば、デフリンピックの気運醸成についての話し合いがほとんどできておらず、当連盟としての取り組み方不足が感じられた。参加者が少なく呼びかけが足りなかったことを反省したい。

◎会長会議（組織部）

年3回の会長会議を開催し、地域協会と連盟役員会の意思統一を行い、会員拡大や連盟改革について話し合った。

①実施日 5月18日（土） 会 場 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 53名

内 容

課題対策会議を基にした意見交換

旧優生保護法裁判の状況について

「沈黙の50年」映画上映

各専門部報告等

②実施日 6月23日（日） 会 場 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 62名（併催 全国大会報告会）

内 容

全国ろうあ者大会報告会&2024年度第二回区市協会会長会議

組織改編についての意見交換

デフリンピック成功のために

区市協会情報交換・連盟への要望

報告・その他

③実施日 2025年1月26日（日）

会 場 八王子市生涯学習センター（クリエイトホール）

参加者 48名

内 容

旧優生保護法被害者救済について

デフリンピック気運醸成

2025年度事業日程について

連盟への要望

その他

◎全国大会報告会（組織部）

和歌山県で開催された（一財）全日本ろうあ連盟評議員会、第72回全国ろうあ者大会分科会に出席した役員が内容を報告し、地域協会役員に全国のろうあ運動の状況を把握していただいた。

実施日 6月23日（日） 会 場 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 62名（会長会議併催）

内 容

全国ろうあ者大会報告会

第一分科会、第二分科会、第三分科会（各分科会報告）

◎災害対策会議（災害対策部）

実施日 8月11日（日） 15時半～17時

会 場 渋谷区立地域交流センター恵比寿

参加者 51名

都連盟災害対策委員会からの情報提供、能登半島地震のろう者の安否確認と避難状況についての状況報告、区市協会災害対策取り組み状況報告を行なった。いろいろな情報提供及び状況報告を各地域に持ち帰って地域で更に取り組んでもらおうという狙いで企画を進めた。

◎第18回災害対策学習会（災害対策部）

実施日 2025年1月25日（土） 13時半～16時半

会 場 中央区晴海区民館

参加者 46名

テーマ「震災30年 ～阪神・淡路大震災について考える～」

「阪神大震災の恐怖」ミニ講演、ろう者の被災体験が語られている「阪神・淡路大地震 ～ろうあ者の1・17～」のDVD上映などで過去の経験を学び、いろいろな情報提供及び状況報告を各地域に持ち帰って地域で更に取り組んでもらおうという狙いで企画を進めた。

他1－（2）専門部会議・交流（高齢部、女性部、青年部、手話等）

◎高齢部新年会（高齢部）

実施日：2025年1月25日（土）

会 場：渋谷区リフレッシュ氷川集会室

参加者：41名

内 容：クイズ&ゲーム交流・食事会

◎新年会（女性部）

実施日：2025年1月13日（月・祝）

会 場：渋谷区リフレッシュ氷川 集会室

参加数：98名

内 容：講演、余興

お弁当、久しぶりのアルコール類も提供しました。

栗野会長・来賓の印南美和子様にご挨拶をいただき、多方面でご活躍されている緒方れん氏をお招きし、ミニ講演会が行なわれました。手話劇放送の裏話やご自身の体験によるエピソードなど貴重なお話を伺うことができました。

特に演じることの大切さ、きこえる人とあうんの呼吸の大変さなど分かりやすく説明され、本当に胸を打たれました。

◎第39回東京都手話通訳問題研究会（手話対策部・東京都手話通訳問題研究会）

実施日 2025年2月2日（日）

会場名 渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 42名

「みんなで応援しようデフリンピック」

東京都手話通訳問題研究会（東通研）が開催してきた事業を手話対策部と共催して開催した。午前の部は講師を招いて講演。午後の部はワークショップを実施した。

午前の部 講演

講師：倉野直紀氏（全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会事務局長）

午後の部 ワークショップ

デフリンピックに関するワークショップを参加者で行った。

- ・サインエール
- ・ジェスチャーゲーム
- ・ピクトグラム
- ・国名手話

対面集会でデフリンピックについてを理解し、共有することができた。また、ワークショップは参加者も参加して盛り上がり意義の深い集会となった。

◎手話奉仕員養成担当講師連続講座（手話対策部）

実施日 7月～2025年3月

会場名 渋谷区立本町区民会館、東京都障害者福社会館（三田）、渋谷区立幡ヶ谷区民会館、渋谷区リフレッシュ氷川

参加者 35名

この連続講座は、2024年7月から2025年3月まで、全12回行った。

手話奉仕員養成講習会の指導者を養成するために、2023年度全国手話研修センター発行の手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう・手話で話そう」（新テキスト）講義は全国手話研修センターの講師が務め、東京都聴覚障害者連盟発行の手話奉仕員養成テキスト「手にことばを」（初級・中級テキスト）等の講義は東聴連手話対策プロジェクト委員会の担当者が講師を務めた。

今回の全課程すべて修了した受講生は35名中17名。この17名の受講生には手話研修センター発行の修了証書が手渡された。また35名には東京都聴覚障害者連盟主催の「手にことばを」の講義修了証書が手渡された。

◎手話言語デーイベント

国際手話言語デーと東京都手話言語条例制定を記念し、手話言語について啓発するために各地域で一斉行動を行った。

また、全日ろう連と手話言語市区長会主催の「手話言語の国際デー&デフリンピック応援 Day」を東聴連が主管、東京都共催で、都庁（都民ホール、ギャラリー、都民広場）で開催し、オンラインでも配信した。

実施日 9月23日（土）

参加者 約400名（都民広場参加者多数）

都内ライトアップ実施地域

- ・東京都：東京都第一本庁舎
墨田川橋梁群 10 橋
白鬚橋、吾妻橋、駒形橋、厩橋、蔵前橋、清洲橋、永代橋、佃大橋、
勝鬨橋及び築地大橋
品川区橋梁 13 橋
新品川橋、品川橋、荏川橋、要津橋、三嶽橋、森永橋、小関橋、鈴懸
歩道橋、山本橋、ふれあいK字橋、かもめ橋、勝島橋、アイル橋
- ・江戸川区：タワーホール船堀展望塔
- ・多摩市：聖蹟桜ヶ丘駅前ヴィータ・コミュニネ時計塔
- ・大田区：大田区役所本庁舎の三階吹き抜け部分
羽田イノベーションシティのゾーンH（ライブホール）の外壁面
区役所本庁舎 1 階
- ・日野市：市民の森ふれあいホール
- ・板橋区：区役所正面
- ・府中市：市役所、府中駅前商業施設「くるる」
- ・豊島区：豊島区役所本庁舎障害福祉課前、としま区民センター 1 階
- ・江東区：ふれあい橋 富岡八幡宮
- ・北区：区役所（第2庁舎）
- ・荒川区：あらかわ遊園
- ・世田谷区：区役所第2庁舎 1 階
- ・調布市：文化会館たづくり（壁面）
- ・東村山市：東村山駅前（東口時計塔）
- ・国立市：旧駅舎

他1－（3）文化活動

◎文化セミナー（企画文化部）

実施日 7月27日（土）

会場名 港区立障害保健福祉センター多目的体育室

参加者 70名

講師 今井彰人氏 『ろうって素晴らしい』

きこえない人の手話言語ときこえる人の手話言語の比較などについてのお話で、
手話言語の文法の違いを改めて学習できた。

◎第44回聴覚障害者将棋大会兼オープン大会（企画文化部）

実施日 9月22日（日）

会場名 東京都障害者福祉会館

参加者 11名

若い会員がやっと入って来たが、参加者が少なく将棋の魅力をPRする努力が必要である。

◎第17回聴覚障害者切手研究会切手展（企画文化部）

切手展（ミニペックス）は、展示の数30フレームでメンバーたちの作品を展示しました。

実施日 2025年3月29日（土）～30日（日）

会場 切手の博物館（豊島区）

参観者 149名

他1－（４）社会見学・定例会・学習会・ウォーキング

◎社会見学・定例会・学習会（女性部）

ろう女性の文化教養など知識を高め、体験学習などを行い、親睦をはかるために女性部定例会を開催しました。

①第1回定例会

実施日：9月26日（木）

内 容：社会見学

場 所：埼玉県北本市グリコピア・イースト

参加者：30名

皆さんお馴染みのお菓子、グリコにまつわる様々な情報や新たなお菓子の味見をしながら楽しく学べる施設。グリコ、ポッキーとプリッツの違いや手話表現も紹介され楽しく、さらに素敵なお土産も頂戴しました。

②第2回定例会

実施日：11月14日（木）

内 容：ミステリーバスツアー

行 先：群馬県方面

参加者：43名

毎年好評をいただいているミステリーバスツアー。当日、良い天気恵まれて、集合時から早くも行先はどこなのかと予想をし始めました。当たるわ、残念だわ、みんなで盛り上がったようです。めんたいパーク、こんにやくパーク、ガトーフェスタハラダ本社を回っていくにつれ、試食し、お土産など楽しまれて、ご満悦のようでした。

◎青年部講演会&交流会（青年部）

①実施日 4月22日・23日（月）（火）

場 所 オンライン

内 容 「国際手話」（入門）

参加者 6名（役員5名はのぞく）

東京デフリンピックが開催されることで、ボランティア参加するために国際手話オンライン講座を開講した。覚える範囲が広すぎ、顔の表情も含めて表現することなどが結構大変だった。これを機に国際手話を少しずつでも覚えていきたいという声があった。

②実施日 5月25日（土）

場 所 葛飾区男女平等推進センター

内 容 「防災講演会」

参加者 34名（役員5名はのぞく）

テレビでは見られない被災者であるろう者の避難生活の裏側の実態、そして福祉避難所（ろうの村）や災害対策本部の組織内容、動画を使った情報発信やLINEの安否確認を利用した情報収集などの話をして頂いた。

聴覚障害者に対する迅速な支援ができたのは常日頃から行政との連携があったからなど、今後の災害対策への参考になることが多かった。

③実施日 6月15日（土）

場 所 東京都障害者福祉会館

内 容 「お菓子教室」

参加者 9名（役員5名はのぞく）

初夏にピッタリな和菓子として、わらび餅と紫陽花を作った。調理方法はちょっと大変だったが、試食後は「本当に作った甲斐があった」との声があがった。和菓子作りは今までやった人があまりなかったようで、貴重な経験になった。

④実施日 6月30日（日）

場 所 東京都障害者福祉会館（オンライン含む）

内 容 「マイノリティ～自分の力で突破する方法～」

参加者 9名（役員2名はのぞく）

伊藤芳浩氏にマイノリティ講演をしていただいた。ろう者には情報が入ってこない、コミュニケーションがうまく行かない、といったバリアが社会にたくさんあるが、こういったバリアをなくすためにはどうしたら良いか考える必要がある。

社会を変えることは難しくないが、自分一人だけではできないので、色々な人を巻き込む必要がある、そのためにはアプローチが必要だという話だった。

⑤実施日 10月7日（月）・15日（火）

場 所 オンライン

内 容 「国際手話」（中級）

参加者 8名（役員2名はのぞく）

那須映里氏の国際手話中級程度の講座。入門と比べて結構難しかった。外国人のろう者と意思疎通するためには、主に5W2Hをメインに表現することが大切なこととのこと。那須映里さんの説明はわかりやすく、楽しく受講することができた。

⑥実施日 10月24日（木）

場 所 オンライン

内 容 「マネジメント講演会」

参加者 6名（役員3名はのぞく）

和歌山県青年部部長田村さんのマネジメント講演会。運営組織、管理、部長についてなど。会員及び仲間を増やす方法を学べ、大変参考になった。

⑦実施日 11月10日（日）

場 所 オンライン

内 容 「SNS勉強会」

参加者 8名（役員3名はのぞく）

長野県青年部の吉池さんと道田さんによる講演は、実践的なツールの使用方法や作業の流れを詳しく解説してくれた。特に驚いたのは講師がパソコンを持っていなかったこと。

最近のスマホやタブレットを活用している人がたくさんいるが、iPadはパソコンより優れているところがいくつかあり、Apple Pencilなどを用いた感覚的な操作方法は、パソコンより使いやすいとのこと。

⑧実施日 2月2日（日）

内 容 「好きなことを語る会」

雪の予想であったため、役員間で議論した結果、中止とした。

◎高齢者サロン(高齢部)

実施日：9月16日(月祝)

場 所：東京都障害者福祉会館

参加者：48名

講 師：住谷宏見氏(高齢部会員・品川区在住)

テーマ：日本の城のおもしろみ

他1－(5) 研修旅行等

◎社会見学&野外交流(高齢部)

実施日：10月14日(月・祝)

場 所：恵比寿ガーデンプレイス・ビールミュージアム

参加者：20名

内 容：ビールの歴史展示見学・交流

◎高齢のつどい(高齢部)

実施日：9月9日(月)

会 場：東京都多摩障害者スポーツセンター

参加者：22名

講 師：荒井康善氏(東聴連災害対策部長)

テーマ：高齢者と災害

◎三専門部交流会(新規：青年部・女性部・高齢部)

実施日：7月14日(日)

会 場：港区スポーツセンター サブアリーナ

参加数：36名

内 容：ボッチャ交流会

高齢部、青年部、女性部合同で初めての企画、ボッチャ交流会を実施した。

日本ユニバーサルボッチャ連盟の講師、渡辺美佐子氏にお願いしてルールを説明、初めて体験した方もいて盛り上がった。

他1－(6) 研究調査

◎区市町村における聴覚障害者の社会資源調査(福祉事業部)

聴覚障害者の社会資源の調査及び課題などを把握し、手話言語条例の推進や地域聴覚障害者施策の参考とするため、地域行政を対象に意思疎通支援要綱、障害者福祉計画や障害者差別解消条例の影響、遠隔通訳サービス等を調査する予定だったが、準備不足のため次年度に持ち越した。